

編集・発行
東京都新宿区環境部
リサイクル推進課
〒160-8581 新宿区内藤町87
TEL 3209-1111代
年2回(8月、2月)発行



夢・彩・多
新宿300年
1998

内藤新宿開設二百年記念

すてきな

新宿リサイクル情報紙

今年1998年は内藤新宿(現在の新宿の前身)が開設されて300年に当たります。今回は、江戸時代から現在に至るまでの容器包装の移り変わりや、当時生活に密着していたリサイクルについてご紹介します。

江戸のリサイクルを支えた商売人たち

当時は新製品よりも、古着や古道具を買うことが多かったようです。また、生活から出る不用物も、再生したり、他の目的に使ったりと、無駄なく利用されていました。

社会の動きと 容器や包装材等の変遷

- 1698 高松喜六 宿場開発の許可を得る。
内藤新宿の誕生
江戸時代の容器包装
和紙、竹の皮、経木
袋物(布製)、袱紗、風呂敷
樽、桶などの木製品
徳利、かめ、甕などの陶器類
- 1867 明治維新
●国産缶詰第一号製造
●国産びんビール製造始まる
- 1890 日本の産業革命がおこる。
●瓶詰の酒、しょう油の生産
●缶詰の発達
- 1895 日清戦争
●携帯食、保存食の発達
- 1905 日露戦争
- 1914 第一次世界大戦
- 1923 関東大震災
- 1945 第二次世界大戦終結
●石油化学製品の発展
●スーパーマーケットの登場
●発泡トレーの普及
●スチール缶飲料の登場
- 1960 高度経済成長始まる
●自動販売機の増加
●即席めんの発明
●牛乳パックの登場
●アルミ缶ビールの登場
- 1971 東京都ごみ戦争宣言
●カップ入りめんの登場
- 1973 石油ショック
●缶入り飲料が主流に
- 1980 イラン・イラク戦争
●PETボトル飲料の登場
- 1985 G7合意 円高へ
●コンビニエンスストアの増加
●天然水ブーム
- 1989 バブル景気のピーク
- 1995 新宿区リサイクル条例の制定
- 1997 容器包装リサイクル法の制定
- 1998 内藤新宿開設300年



紙屑拾い 紙に関しては、紙屑拾いが回収し、紙屑買いが買い集め、問屋を通して、浅草紙などの再生業者に売られていた。



古着買い 江戸時代に古着は一大産業を形成していた。街道沿いに古着屋が店を並べ、上方や、関東、奥羽は大きな市場であった。



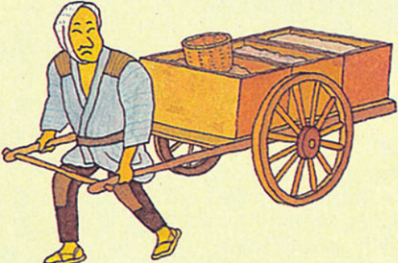
古かね買い 古かね買いは、鉄、銅、真鍮を主として、買いつける屑物買いである。江戸の鍛冶屋の技術は高水準であったので、不純物の少ない再生品が製品として消費された。



明樽買い 江戸時代の液体運搬に専ら使われたのが樽である。現在のびん回収と似た回収システムが形づくられ、古くなった樽は箍の締めなおして再生された。



馬糞買い 肥取り 馬糞も下肥も戸塚や落合、渋谷など農村に送られ立派な商品として、取引された。



灰買い 江戸時代、灰(草木灰)の水溶液はアルカリ性を示し、様々な分野で化学薬剤として重宝された。また、土壌改良や陶磁器のうわぐすりとして多岐にわたり使われた。

江戸のごみ問題 江戸時代にも「ごみ問題」がありました。幕府が開かれて以来、江戸は人口が激増し、ごみの量も急激に増えていきました。江戸のごみは当初永代島(現在の江東区の富岡八幡宮近辺)に捨てることになっていましたが、市中からまとめて船で運んでいたため、途中の掘割りや川に不法投棄する例が後を絶たなかったようです。また水路だけではなく、火事の延焼を防ぐための空き地(火除け地)にもごみが不法投棄されていました。幕府はたびたび禁止令を出して防ごうとしましたが、実効は余りなかったようです。

ただし当時のごみは火事のときに焼け落ちた壁土等が多く、現代のごみの組成とは全く異なります。再利用できるものはすべて、これら商売人達によってリサイクルされていたのです。



環境部環境部・リサイクル推進課の屋外...
今年300周年特集...
「すてきな」の発行...
「すてきな」の発行...
「すてきな」の発行...



「資源浪費のついで御用だ！」

(漫画ゴミック「廃貴物」VOL.3 高月結著 朝日新聞)

内藤新宿開設300年記念クイズ

江戸時代にごみとして捨てられていたものうち、永代島の埋立に主に使われていたものは次のうちどれ？

- ①火事の後に残った壁土
- ②食事の後に残った生ごみ
- ③人事の後に残った不満

はがきにクイズの答えと、住所・氏名・年齢・電話番号・ご意見感想をお書きの上、リサイクル推進課までご応募ください。正解者のなかから抽選で50名にリサイクルグッズを差し上げます。締切は2月25日(必着)。発表は発送をもってさせていただきます。

情報コーナー

- 先月23日に四谷区民ホールで、平成9年度リサイクル功労者の表彰式及び優良事業者認定式が行われ、リサイクル功労者は、団体で2団体、個人では21名が表彰され、優良事業者については、6事業者が認定されました。
- 新宿区ごみ分別指図書リーフレット「家庭から出る資源・ごみの出し方」を作成しました。お近くの特別出張所・本庁舎区民課・リサイクル活動センター・当課窓口にて用意してあります。冷蔵庫などに貼ってごみの分別と資源回収に是非ご利用ください。
- リサイクル活動センターでは、来たる2月20日午後2時から4時まで、リサイクル講演会「環境にやさしいリサイクル生活のすすめ」を開催します。ご家庭・お友達お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

編集後記

私たちが生活している東京もほんの5、60年前は、ものを大切に使い、壊れたら、修理に出し、不用になったものは、道具屋や古着屋によく持ち込んで生活してきました。さらに時代を遡り、江戸という時代は、すべてにリサイクルを取り入れた資源循環型社会であったといえるでしょう。

よく錦絵に描かれる内藤新宿には、馬が登場します。江戸御府内と近郊農村の物流は、馬と運河による船送りに委ねられていました。その運ばれる品は、米やしょう油などに交じり、農村からは、野菜や反物が、江戸からは、馬糞、下肥、古着などが農村に送られていました。生活都市江戸と生産地としての農村が資源のリサイクルを通して共栄していたのです。

今回は、内藤新宿開設300年にちなみ、江戸で修理や再生を商う人々、再利用できるものを回収する人々をとりあげました。また、年表では、ごみになる包装容器がいつから使われ始めたか現在まで時代をおって紹介しました。江戸の時代を偲び、もの大切さを考えてみましょう。

論奏

わたしは、第2期リサイクル推進員に任命され、推進員に任命された理由としては、65歳で会社経営を離れ、現在は、健康的な生活を送っています。現役時代は、自動車部品の販売をしていました。新品部品及びリビルト(再生)部品を海外に輸出するのが主な内容です。その時の経験を今、今後、社会に奉仕できないかと考えたからです。

1970年(昭和45年)頃、アメリカ、カナダ方面に旅行する機会があり、多くの再生部品が流通していたのです。再生部品は、きちんと箱入りされた下に(REBUILD)とマークされていたからです。資源の豊かなアメリカでこのようなシステムが形成されていた時、日本の市場がかなり遅れていたことを思い出します。

自動車事故が頻りに発生し、修理に時間がかかり、費用も高くなります。再生部品の使用は、合衆国民が考えた知恵の結果だと思いつきました。アメリカでは、1945年(昭和20年)までの数年間、第二次世界大戦の軍需兵器生産のため、その期間、自家

用車の生産が中止されてきました。その時代からリビルト部品が普及したそうです。

高度経済成長を経て、日本車がアメリカをはじめ、世界各国に輸出されると日本車のリビルト(再生)部品が要求されるようになり、そこで、わたしは、再生部品を製造するにあたり、アメリカの大量生産方式の工場を見学し、製造機械一式を輸入しました。生産された部品は、製品の優秀さが認められ、広く海外に輸出することができました。

全世界に需要のあるリビルト(再生)部品ですが、現在、日本では、リビルト(再生)部品は、ほとんど使用されていません。

青年期の食糧不足、衣類も繕って生活していた時代を思い出した時、わたしは、区民の一員として、資源のリサイクルをもっと理解し、資源の分別に協力することによって、ごみの発生を少なくし、資源の再利用を実現し、PRをしていきたいと思います。

※リビルト(再生)部品を自動車部品販売店で再生した製品と交換すること。また、その製品・部品を使うこと。(推進員H・T)

世界のリサイクル事情その16

コメントにこう記してあります。「中近世は、この絵のようにごみの扱いがひどかった。動物たちにはよかったです。スイスではこのようなくらし方によって1768年にベストが大流行。大勢の人が亡くなりました。」

ベスト菌やチフス菌、コレラ菌の大流行で伝染病の大きな被害を受けたヨーロッパでは、この事件がきっかけとなって、ごみの収集が大会社から始まっています。しかし、それは、ごみを回収して別の場所で土をかけて埋めるという処理でした。日本と同じですね。

清掃工場をヨーロッパで初めて建設した国もスイスです。チューリッヒ市郊外のハーゲンホルツ清掃工場が1904年です。今から94年前になります。

ここで驚くのは、すでにこの小さな清掃工場の焼却炉で出た余熱を利用して、チューリッヒ市は貧しい人のための共同浴場をつくり、誰でも利用できるようにしていることです。現在では、この工場は、人口50万人になったチューリッヒ市のなかで、もうひとつのヨーゼフストラッセの清掃工場から出る余熱とあわせて地域の熱供給システムの基地として、大きな役割を果たしています。

この2つの清掃工場から発生するエネルギーは電力利用をしたあと余熱を地下のトンネルを通して総配管距離150kmに達する太いパイプで、州立病院、チューリッヒ中央駅、図書館、大学、高校、製紙工場、ヨーグルト工場、一般家庭の冷暖房として貴重なエネルギーを供給しています。

ヨーロッパの環境先進国は、歴史の中で苦い体験を通して災害の予防と未然防止に努めています。日本の場合、昔の良い習慣を時代遅れという言葉で捨ててきました。江戸時代を知ることが、日本の忘れられた文化や伝統がヨーロッパに負けないものであることを知る上でとてもよいことです。

私達の住むかけがえのない地球のために！いま！あなたの一歩を踏みだそう！

皆さんは、買い物をする際、買い物かごや買い物袋をお持ちになりますか？

買い物袋を持参したり、贈答品等の包装を簡易なものに換えていくことなど、毎日の生活の中で使い捨て容器と余分な包装をなくす心がけが、資源の有効利用、ごみの減量につながるのです。

豊富な資源と快適な生活環境を次世代に引き継いでいくために、今、自分のできることから始めてみませんか！

★昨年のキャンペーンより



●協力団体の方々による通行人への呼びかけ

●区内百貨店によるキャンペーン周知用懸垂幕の掲出

今年の「簡易包装推進キャンペーン」は、平成10年3月18日水～24日火の1週間にとり実施します。